

# 着実な高速道路ネットワークの整備と機能向上



ネットワーク整備の進捗と機能向上、  
地域との連携・共生に努めています。

福岡工事事務所 所長 中園 明広

## 東九州道436kmの終盤戦 産業・経済・文化、地域の生活向上へ社員一丸

一九州地区では東九州自動車道の整備が着々と進行しています。福岡工事事務所が担当する苅田北九州空港～行橋～豊津間の16kmについても、地元のみならず九州全域から大きな期待が寄せられています。

東九州自動車道は、九州の東海岸を通るルートとして福岡県北九州市から鹿児島市までを結ぶ延長約436kmの高速道路です。九州自動車道や大分自動車道とともにネットワークを形成し、福岡、大分、宮崎などの産業・経済・文化の振興と発展、さらには地域の方々の生活向上に貢献すると期待されています。

東九州は、九州の中でインフラ整備が遅れているといわれていますが、地域の皆さまと直に接してみると、東九州自動車道の早期完成に向けた期待をひしひしと感じます。沿線の自治体をはじめ、産業界、農業従事者、医療関係者など、さまざまなお立場の方の期待に応えるため、現場を預かる事務所として「造ると決めた道路は少しでも早く完成させる」を合言葉に社員一丸となって頑張っています。



## 地元の皆さまとのコミュニケーションを深め 沿道の生活環境保全に全力

一工事を進める上で、地元の皆さまの協力は欠かせません。どのような対話を行っていますか。

現場の第一線で協議調整にあたる時は、地元行政の支援を得て地元の皆さまへのご説明をしっかりと行い、事業へのご理解をいただきながら工事を進めています。地元の皆さまや関係者の方との対話の機会を持つため、事業説明会や現場見学会、地元小学校への出張学習会等も積極的に開催し、コミュニケーションを深める努力を続けています。

また、福岡工事事務所独自の取り組みとして、地元小学生と一緒に沿道の緑樹帯にどんぐりの木を植える予定です。拾ったどんぐりを苗木になるまで育成し、開通前に植樹します。



出張学習会で高機能舗装の仕組みを説明



地元小学生と一緒にどんぐり拾い

## トンネル掘削による騒音・振動や ダンプカー走行時の粉じん等の対策に万全

一開通に向け鋭意工事が進んでいますが、現在抱えておられる課題は何かありますか。

苅田北九州空港～行橋間8.6kmはいわゆる山岳地帯を通っていますので、トンネルが3カ所あります。トンネル工事は基本的には24時間体制で行いますので、工事中における発破掘削の騒音・振動には十分注意しています。

また、行橋～豊津間7.4kmは盛土を使った土工区間が続きます。この区間は平地が多く、例えば、切土で得た土を盛土に利用することができないため、約170万m<sup>3</sup>という大量の土を近辺の山から現場まで運ぶ必要があります。

盛土工事は2011年後半から始める予定ですが、その際は10tのダンプカーが市街地の生活道路を走るようになりますので、粉じん対策や交通安全対策に万全を期し、ダンプカーの速度超過や過積載が無いようドライバーへの指導も徹底するよう社員に呼びかけています。



騒音・振動に細心の注意を払いながら掘削を実施



工事が着々と進む盛土区間

## 工事の品質確保と 道路の資産価値向上を目指して

一工事の品質確保と、その向上に向けた取り組みはいかでしょうか。

現場の仕事は、グループ社員を含め建設に携わる人の連携作業です。高速道路は、国民の皆さまの資産であり、建設コストを抑え工事品質を確保し、向上させることは必須目標です。現場技術者とのコミュニケーションを密にして、新技術や新工法を導入したり、QCM (Quality Control Manager) 活動\*や若手技術者への教育に取り組んだりしています。

また、高速道路の建設は調査から工事完成まで、一般的には10余年かかる大仕事です。その中で、各人が道路のプロフェッショナルとして、しっかりと事業への貢献の足跡を残せる場にしたいですね。

\*工事の品質に関して、日常管理や巡回指導、不定期の点検等を実施するもの

## 高速道路の防災機能を向上し 安全・安心な道路を次世代に残したい

一このたびの東日本大震災では、高速道路が避難場所になり防災機能も注目されました。

東日本大震災の地震と津波の被害には本当に心が痛みます。阪神大震災では、震災復旧担当として橋梁の復旧に携った経験がありますが、今回の震災では東北自動車道がわずか1日で復旧し、災害救援道路として大きく貢献したことを誇りに思います。

災害時には緊急輸送路に指定される高速道路は、耐震設計や溪流防災対策はもちろんですが、「想定外の災害事象」にも対応できるような機能、ハード・ソフト・人的なチームワークがより大切だと再認識しています。

## 2014年完成を少しでも早め ネットワークの価値を拡大させる

福岡県では、北部九州を整備することで、産・官・学が連携したアジアを代表する自動車の一大生産拠点づくりを進めており、沿線には自動車関連産業が集積しています。こうした地域の発展をインフラの早期整備の面で支え、ネットワークの価値を拡大させるために、中津、延岡、宮崎の各事務所と連携し、「豊前の国から豊後の国へ 繋ごう 東九州道」を合言葉に一日も早い完成を目指します。



## 安全・安心の追求／老朽化への対応



高速道路の安全確保に努め、お客さまに安心・快適な道路環境を提供します。

神戸管理事務所 所長 小田 慎二

約10万台の重交通路線を含む管理延長85kmで100%の安全・安心の追求を目指す

一神戸管理事務所が担当する路線の中には、1日の平均交通量が10万台前後のいわゆる重交通路線が含まれており、お客さまの安全・安心の確保が最重要課題だと伺っています。

神戸管理事務所は、大阪府および兵庫県内における高速道路4路線・総延長85.1kmの維持管理、料金收受などの業務を行っています。重交通路線は、中国自動車道 中国池田インターチェンジ～神戸ジャンクション間21kmで、特に宝塚インターチェンジ～西宮山口ジャンクション間約10.5kmの平均交通量は113,863台/日(2010年)と西日本エリアでも交通量が4番目に多い区間です。

2010年は、ETC休日特別割引や舞鶴若狭自動車道の無料化社会実験の影響もあり、管内全体で交通量が増加傾向となっています。阪神高速道路や神戸淡路鳴門自動車道など隣接する区間との連携も密にして、交通安全・渋滞対策などお客さまの安全・安心の確保に全力で取り組んでいます。



神戸管理事務所管内図

死傷事故件数の減少へ後尾車両への追突事故防止に全力

一交通事故の撲滅や渋滞対策として、具体的に実施している取り組みを教えてください。

交通事故の撲滅は神戸管理事務所でも最も重要な課題です。2010年度は、死傷事故件数が90件あり、残念ながら5名の方が亡くなりました。これらの事故は、渋滞時の後尾車両に追突するケースが多いため、「渋滞後尾のハザードランプ点灯」などのトイレボードや横断幕を使った啓発活動をはじめ、迅速かつ正確な渋滞情報の提供や、渋滞の後尾に「注意喚起標識車」等を配置し警戒にあたるなどの追突事故防止対策を行っています。

また、2010年7月、大阪、兵庫、京都、滋賀の各県警と連携した「高速道路重大事故根絶プロジェクト」に参加し、渋滞時の重大事故根絶に向けた対策を継続的に議論しています。ETC休日特別割引の実施で、これまであまり高速道路を利用いただいたことがなかったドライバーも増えていきますので、安全確保に向けたより一層の努力が必要だと考えています。



安全を最優先に現場で対応する交通管理隊員

良質な資産を次世代に残すため老朽化による補修工事を実施

一管理路線のうち51%は、開通後30年以上が経過しています。特に中国自動車道は供用開始から40年以上経過しており、老朽化による補修工事でも進めなければなりません。

経年劣化や交通荷重による橋梁劣化が進んでおり、路面には床版劣化に伴うポットホール(路面損傷)が頻発しています。そこで、補修に伴う緊急工事規制の回数を減らすため、ポットホール発生件数の多い橋梁から順に集中工事規制による補修工事を実施しています。2007年度から床版上面増厚工事(床版防水工含む)や舗装補修工事、中分防護柵老朽化更新工事などを行っており、2010年度は、中国自動車道 西宮山口ジャンクション～神戸ジャンクション間の2橋について、約8,300㎡の床版上面増厚工事を行いました。



中国自動車道での集中工事規制

一補修工事とともに、激甚災害にも耐えられる高速道路づくりも大切とされています。

橋脚の耐震補強を計画的に進めており、管内では特殊橋脚16基の補強は残っていますが、それ以外の橋脚は2010年度までにすべての工事を終了しています。

目標を共有してグループ総合力を結集安全・安心を守る人のネットワーク

一高速道路を維持管理するためには、グループ会社との連携が欠かせません。

道路ネットワークを支えるのは、グループの人的ネットワークですから、お客さまの快適な走行を確保するため、グループ会社との連携協力には特に力を入れています。現地巡回を行う交通管理隊や道路のメンテナンス部門はもちろん、料金所やエンジニアリング部門との綿密なコミュニケーションは不可欠です。定期的に勉強会も開催して現場での対応を議論するなど「100%の安全・安心」の達成にグループ社員一丸となって取り組んでいます。



グループ会社との全体会議

地元小学生とNEXCO西日本社員による「花植え会」

高速道路の沿道地域との共生を図るため、NEXCO西日本ではさまざまな交流イベントを行っています。中国自動車道では、宝塚市立安倉北小学校の児童と一緒に、小学校前ののり面花壇で「花植え会」を毎年2回(6月頃:2年生、12月頃:3年生)実施しています。「花植え会」は2011年で22年目を迎え、約20年前に児童として参加した方も子どもたちが参加するなど、2世代にわたった行事として地域で親しまれています。



花植えを楽しむ子どもたち

お客さまに快適と感動を感じていただける価値の提供を

NEXCO西日本では、サービスエリア・パーキングエリアにおけるお手洗いのリニューアル工事を進めています。中国自動車道 西宮名塩サービスエリアは、この取り組みの第一号として2007年にお手洗いの改修を完了しました。お客さまからのご意見・ご要望を参考に、室内空間を明るくしたり、段差を解消したりしたほか、女性用のお手洗いにはパウダーコーナーも設置しました。また、山陽自動車道 三木サービスエリアでは、ドッグラン施設やスターバックス、宝塚ホテルペカリーコーナーなどの魅力ある店舗を運営しており、ウェルカムゲートを利用した地元のお客さまが多数お越しになっています。今後もお客さまの期待に応えられるような施設づくりを進めていきます。



西宮名塩SA パウダーコーナー(下り線)



三木SA ドッグラン